

新市民プールの誕生を 盛大にお祝い！

～市民プールオープンセレモニー～

6月1日(火)のオープンを前に、幸町に新設された登別市民プールの『オープンセレモニー』が5月30日(日)、同プールで開かれ、水中パフォーマンスショーや水泳大会などで、温水を活用した健康増進施設の誕生を祝いました。

新しい市民プールは、競技用コース（日本水泳連盟公認）や多目的、流水・歩行、リラクゼーションの4種類のプールに加え、トレーニング室を完備した総合的な健康増進センターです。

午前、午後合わせて約千人の市民が参加したセレモニーは、初めに上野晃市長が「多くの市民に活用していただきたい」とあいさつ。姉妹都市・宮城県白石市の太斉義勝助役や山田正幸登別市連合町内会会長らの祝辞に続いて、市長ら関係者によりテープカットが行われました。

この後、競技用プールでは水の道化師『トゥリトネス』のパフォーマンスショーが行われ、コントを交えたシンクロを披露。会場を埋めた市民から爆笑と感嘆の声が上がっていました。

また、オープンを記念して姉妹都市少年水泳大会も行われ、登別、白石両市の小・中学生が力泳を競いながら、交流を深め合っていました。



水の道化師『トゥリトネス』によるパフォーマンスショー



▲テープカットの様相

多目的にご利用ください ～コミュニティバスの実証運行が始まる～



6月1日(火)からコミュニティバスの実証運行が始まりました。この実証運行は、平成17年3月まで10カ月間、公共施設間を試験的にバス運行し、交通の利便性の確保や新たな利用客の需要を喚起するとともに、輸送実績や利用者実態調査などを行い、路線バス運行の可能性をさぐるもので、公共施設の利用に限らず、多目的に利用することができます。

事業費は708万円（うち国が210万円を負担）で、6月20日(日)までの利用者数は584人（1日平均約30人）。運行経路やバス停などについては、この広報紙の15ページに詳しく掲載しているほか、市のホームページ（<http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp>）でもご覧いただけます。

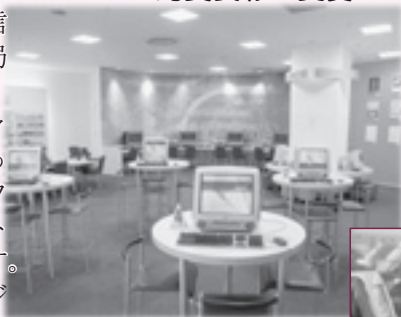
地域情報化の取り組みに高い評価

～登別市が総務省北海道総合通信局長表彰を受賞～

電波の日の6月1日(火)、札幌市内で『電波の日・情報通信月間』記念式典が行われ、登別市が総務省北海道総合通信局長表彰を受けました。

今回の受賞は、地域インターネットや公共施設間の光ファイバーネットワーク、庁内LAN（光ファイバーなどを使って、同じ建物の中にあるコンピューターなどを接続しデータをやり取りするネットワーク）の整備など、地域公共ネットワークの整備とその市政への活用が高く評価されたものです。

市は、地域情報化の取り組みとして6月からホームページで地図併用掲示板の実証実験を行っているほか、電子申請開始（平成17年7月予定）に向けて、北海道電子自治体プラットフォーム（北海道と道内市町村参加によるシステムの共同開発・運営事業）に取り組んでいます。



▲地域情報センター『P i P』

